

全 体 報 告 書

| 事業名称 | 「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化— |
|-------|---|
| 現状・課題 | <p>沖縄県教育委員会では『沖縄の行事食に関する総合調査報告書』（令和2年）として村落や家族・親族にまつわる行事全般の報告書を刊行した。しかし、年中行事等は多数ありかつ多種多様であることから、詳細調査は村落や行事対象が限定されているため、祖霊祭祀関連の行事食についてはさらなる詳細調査が必要である。伝統的な琉球料理を支える人材の高齢化や年中行事の簡略化等により行事食の衰退が進んでいる側面があり、若い世代を中心とした琉球料理離れが進み、伝統的な食文化が失われつつある。</p> <p>「医食同源（薬食同源）」に起因した家庭料理（養生食）は、長寿県沖縄を支えた大きな要因の一つであったが、現在では長寿県の危機的な状況にある。厚生労働省「都道府県別の平均寿命」によると、沖縄県の平均寿命は男性、女性ともに全国1位の時期もあったが、徐々に下降し、2022年暮れの発表では、男性が全国43位、女性が16位となっている。かつて長寿県の言われていた沖縄県は、近年その地位は大きく揺らいでしまった。</p> <p>沖縄県が実施した「県民の健康・栄養調査」（令和3年度）では20歳以上の肥満者の割合が全国平均を上回り、平均余命の調査結果では、沖縄県の場合は若い人が全体の平均寿命を下けているとの指摘もある。1日あたりの野菜摂取量は全国的に比べても低く野菜よりも肉類の料理が中心になる傾向がある。食卓から伝統料理が少なくなり、現代的な食生活へ変容していることが要因ともされている。</p> <p>そのため、沖縄県では、21世紀ビジョン基本計画で「2040年には男女とも平均寿命日本一に復帰する」という目標を掲げ、沖縄県健康増進計画「健康おきなわ21」を策定し取り組むとともに、平成28（2016）年度からは、沖縄の伝統的な食文化普及推進計画を策定し、沖縄県食文化保存・普及・継承事業として、琉球料理传承人の育成を推進しているところである。</p> <p>以上のことから、沖縄県民が琉球・沖縄の伝統的な食文化について関心を深め、その価値を再認識できる環境を整え、官民一体となって受け継いでいく気運の醸成が求められている。</p> |
| 事業目的 | <p>無形民俗文化財としての「琉球・沖縄の伝統的食文化」登録のため、その文化財的な価値を明らかにするため、前述の現状と課題をふまえつつ、下記のとおり調査研究事業と保存継承事業に取り組むことを目的としている。</p> <p>本事業では調査研究事業の一環として一つの柱は、文献・史料調査に取り組み、琉球料理や「医食同源（薬食同源）」思想の系譜につながる歴史的史料や文献の調査と研究を行い整理することで、その流れを時系列的に総括する。</p> <p>同じく調査研究事業のもう一つの柱として実態・実地調査に取り組む。「医食同源（薬食同源）」の養生食文化に関するアンケート調査を実施し、各地域での家庭料理（養生食）における食材のあり方や実態を把握し、今後の取り組みの基礎資料とする。また、年中行事が一般的に簡素化される傾向にあるなか、祖霊祭祀関連の行事食の伝統を実地調査ならびに聞き取り調査により、現状や実態を把握することは急務である。</p> <p>発信等事業では「食文化ストーリー」のチラシ作成及びWEB発信に取り組む。</p> |
| 事業概要 | <p>（1）調査研究事業</p> <p>【文献・史料調査】</p> <p>①中国使節や薩摩在番奉行の接待・饗応料理としてのおもてなし料理（宮廷料理）について、これまでの研究成果を整理し総括する。日本の食文化との関わりについては研究実績が徐々に端緒がついたところであり、沖縄美ら島財団琉球食文化研究所においても一部取り組みはあるが、薩摩をはじめ日本の食文化の受容と展開については、未調査の史料等があることから、歴史学の研究者の協力も仰ぎつつ、史料調査と研究を行う。</p> <p>②「医食同源（薬食同源）」の思想については、『御膳本草』のテキストとしての研究はあるものの、当該テキスト成立以前の状況やその知識の民間への普及については十分に明らかにされていないため、史料調査と基礎研究を進める。</p> <p>【アンケート調査及び実地調査】</p> <p>③「医食同源（薬食同源）」の養生食文化に関するアンケート調査</p> <p>かつてよく食べられていた食材（野菜・島野菜28品目、薬草等）が今は何がどのように食べられているのか、食べられなくなった食材は何故そうなったのか、市町村ごとにアンケート調査する。本調査を通して、これらの食材を残していくための方策検討の基礎資料とする。</p> <p>④祖霊祭祀の行事食に関する実地調査</p> <p>沖縄県教育委員会『沖縄の行事食に関する総合調査報告書』（令和2年）の基礎調査一覧表をもとに、詳細調査が実施されていない地域について、沖縄本島北部・中部・南部、宮古・八重山地域からそれぞれ主要箇所をいくつかリストアップする。</p> <p>それらの地域について、沖縄の代表的な祖霊祭祀である盆行事を中心に祭祀供物等のあり方に関して実地調査もしくは聞き取り調査を実施する。また、祖霊の墓前祭祀は、沖縄本島及び周辺離島では清明祭（シーミー）、宮古・八重山地域では十六日祭が盛んにおこなわれるが、十六日祭と清明祭は新暦4月頃、十六日祭は新暦2月頃が祭日となるため、実地調査は厳しいことから、既存の調査報告書等や聞き取り調査等で補足し、必要に応じて現地調査協力者に写真等を情報提供の依頼を検討する。こうした祭祀の実施時期の問題もあるため、調査成果の状況によっては2年度にまたがる継続した調査実施の必要性も高い。</p> <p>【調査報告書の作成】</p> <p>⑤上記の調査研究をもとに調査報告書を制作するとともに、食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」のチラシを作成する。</p> <p>（2）発信等事業</p> <p>①「食文化ストーリー」のチラシ作成・WEB発信</p> <p>食文化の文化的価値をわかりやすく伝える「食文化ストーリー」を作成する。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 事業全体での 成果・効果 | <p>本事業の実施により、「琉球・沖縄の伝統的食文化―祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化―」について、文献・史料の整理と調査研究、全県的な島野菜や行事食に関するアンケート調査、さらには盆行事を中心とした実地調査などにより、多くの資料やデータを収集してその歴史的変遷、多様性と特徴を明らかにするとともに、現状や実態を把握することができ、多角的な観点から調査報告書として成果を示すことができた。</p> <p>併せて「琉球・沖縄の伝統的食文化」の価値をわかりやすく簡潔に伝える食文化ストーリーのチラシを作成して、今後の広報普及や情報発信（WEB発信）の手立てとすることができた。</p> <p>これらの成果品は、国立国会図書館はじめ、県内図書館、博物館・資料館、マスコミ、保育園・学童・小中高等学校、大学等の教育機関や老人クラブなど幅広い年齢層へ郵送した（調査報告書：208件、チラシ：1,062件）。</p> <p>交付申請書に記載した指標に対する達成度については以下のとおりである。</p> <p>（１）調査研究事業における目標・指標設定</p> <p>指標に対する達成度については、目標としていた事業実施期間内において当初計画どおりに作成することができた。</p> <p>また、指標項目とした①研究史の総括まとめ、②市町村アンケートの集計結果、③祖霊祭祀の行事食の一覧表については以下のとおりである。</p> <p>①の「研究史の総括まとめ」は調査報告書の「第２章 食文化の歴史的背景」及び「第３章 「医食同源」の思想と食文化」</p> <p>「第５章 祖霊祭祀と供物」の第１節において総括して示すことができた。</p> <p>②「市町村アンケートの集計結果」は調査報告書の「第４章 島野菜の活用状況の把握と普及に向けて ―アンケート調査結果から―」及び「第５章 祖霊祭祀と供物」の１、ならびに【巻末資料】（３）アンケート調査（島野菜・行事食）データにおいて成果を示した。</p> <p>③「祖霊祭祀の 行事食の一覧表」は調査報告書の【巻末資料】（１）行事食関連市町村史・字誌・民俗報告書記載一覧として示すことができた。</p> <p>（２）発信等事業における目標・指標設定</p> <p>①「食文化ストーリー」のチラシ作成・WEB発信</p> <p>本事業の調査研究の成果およびアンケート調査結果、また沖縄の食文化の文化的価値について、広く普及するためのツールとして、チラシ、WEB発信用のデータを作成することができた。（調査報告書とチラシのPDFを弊社HPに掲載予定である）</p> |
|-----------------|--|

事業別報告書

| | |
|-----------|--|
| 事業名称 | 「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化— |
| 区 分 | (1) 調査研究事業 |
| 事業内容 | <p>(事業概要)</p> <p>有識者会議の専門委員会（委員12名）を立ち上げ、調査研究事業の取り組み内容についての検討を行い、事業計画を策定した。調査研究事業では、(1)文献・史料調査、(2)アンケート調査、(3)行事食に関する実地調査（聞き取り調査含む）の3本柱で事業を推進し、最終的に調査報告書を作成することとした。</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>【文献・史料調査】</p> <p>①宮廷料理等に関するこれまでの研究成果を整理し総括するとともに、薩摩をはじめ日本の食文化の受容と展開にかかる未調査の史料等の史料調査と研究を行った。</p> <p>②「医食同源（薬食同源）」の思想については、王国時代に成立した『御膳本草』（1832年）のテキストとしての研究はあるものの、当該テキスト成立以前の状況やその知識の民間への普及については十分に明らかにされていないため、史料調査と基礎研究を行った。</p> <p>③十六日祭と清明祭は実地調査が厳しいことから、既存の市町村史や字誌、民俗関係の調査報告書等の資料やデータを整理し、調査研究に活用することとした。</p> <p>【アンケート調査】</p> <p>④島野菜と行事食に関するアンケート調査</p> <p>かつてよく食べられていた食材（野菜・島野菜28品目、薬草等）が今は何がどのように食べられているのか、食べられなくなった食材は何故そうなったのか、市町村ごとにアンケート調査した。合わせて、十六日祭や清明祭、ならびに盆行事のお供え料理内容について、市町村ごとに調査協力員を通じて各々1～4名のアンケート調査を実施した。</p> <p>【行事食に関する実地調査】</p> <p>⑤行事食の実地調査は主に盆行事を対象とし、十六日祭は例年は2月が祭日であるため可能な場合はという前提で取り組んだ。清明祭は事業着手前に祭日があったため実地調査の対象から外した。調査地は沖縄本島北部・中部・南部、宮古・八重山地域からそれぞれ主要箇所を各1～2村落選定し、当該地域について、沖縄の代表的な祖霊祭祀である盆行事を中心に祭祀供物などのあり方に関して、参与観察調査や聞き取り調査を実施した。</p> <p>【調査報告書の作成】</p> <p>⑤上記の調査研究事業をもとに調査報告書を作成した。</p> |
| 成 果 ・ 効 果 | <p>【文献・史料調査】</p> <p>①鹿児島県の「石原家文書」の史料調査により、薩摩藩を介して和食（大草流など）の料理文化が王家や王族、そして首里・那覇のエリート諸士階層に受容される側面を考察する重要な史料であることがわかってきた。</p> <p>また、沖縄の史料調査からは那覇士族の接待料理の献立は本膳料理（和食）をかなり簡略化したものであること、また首里士族の日常食の状況についても田芋や唐芋を食材とした料理を食するなど一般庶民の食生活と共通する部分もみえてきた。</p> <p>②「医食同源（薬食同源）」の文献調査については、王国時代に成立した『御膳本草』（1832年）がテキストとしてあり、その普及の過程については十分に明らかになっていなかった。R6年度の文献や史料調査等によって、当該テキスト成立以前の状況を整理することができた。また、『御膳本草』にある知識は各間切や村の定例の読み合わせ会で伝えられたとも推察され、王府が積極的に関わっていたことがうかがえた。</p> <p>③十六日祭・清明祭・盆行事に関する文献資料調査</p> <p>市町村史や字誌、民俗関係の調査報告書に掲載されている祭事の内容を抽出し、一覧表にして整理・総括することができた。これら資料は各委員による文献資料の調査研究に加えて、本文において行事の変遷を読み解く際にも活かされた。さらには次に示す行事食アンケート調査の結果と比較対照をして、行事食の実態を分析する基礎資料ともなった。</p> <p>【アンケート調査】</p> <p>①かつてよく食べられていた食材（野菜・島野菜28品目等）に関する島野菜の現況、ならびに十六日祭・清明祭並びに盆行事の行事食に関して、市町村ごとに、実際に経験と知識を持つと想定される中高年層をを対象アンケートによる実態調査を行い、60件の調査データを得ることができ、成果を挙げることができた。</p> <p>②島野菜（4項目の上位）の家庭での使用状況は家庭で作る沖縄料理にもよく利用されていることがわかるとともに、島野菜に健康効果を期待し、日々の食事に活用していることも看取された。今後の取り組みに関する方策検討の基礎資料を作成することができた。</p> <p>③十六日祭と清明祭、ならびに盆行事に関して、上記のアンケート調査実施と実地調査により県内各地の事例を多数収集することができた。十六日祭や清明祭の広がりや祭祀供物のあり方、ならびに盆行事における祭祀供物の現況を把握することができたのは大きな成果である。</p> <p>【行事食に関する実地調査】</p> <p>盆行事の実地調査による参与観察調査と聞き取り調査により、現在の盆行事の実態を詳しく把握することができた。また、盆行事に関しては専門委員や調査協力員その他協力者を通して、盆行事の実施状況の数の情報（写真含む）提供もあり、その事例数は20以上に及び、実態の把握に大きく寄与した。</p> |

事業別報告書

| | |
|-------------|---|
| 事業名称 | 「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化— |
| 区 分 | (2) 保護継承事業 |
| 事業内容 | <div>(事業概要)</div> <div>※調査研究事業以外の保護継承事業および発信等事業の実施は任意のため、実施なし。</div> <div>(実施項目・詳細)</div> |
| 成 果・ 効 果 | |

事業別報告書

| | |
|-------|--|
| 事業名称 | 「琉球・沖縄の伝統的な食文化」調査研究と保存継承・発信事業 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化— |
| 区分 | (3) 発信等事業 |
| 事業内容 | <p>(事業概要)</p> <p>「食文化ストーリー」の調査報告書作成・チラシ作成・WEB発信 『調査報告書』の内容をもとに、琉球・沖縄の伝統的な食文化の文化的価値をわかりやすく伝える 「食文化ストーリー」チラシを作成して、今後の広報普及や情報発信（WEB発信）の手立てとすることができた。</p> <p>(実施項目・詳細)</p> <p>「食文化ストーリー」 本事業で行った【文献・史料調査】・【アンケート調査】・【行事食に関する実地調査】の成果をまとめた『調査報告書』をもとにチラシを製作し、沖縄県内の県内図書館、博物館・資料館、マスコミ、保育園・学童・小中高等学校、大学等の教育機関や老人クラブなどの法人・公共機関へ配付し、沖縄の食文化に関する最新情報や文化的価値について普及・啓発への活用を図る。 また幅広い年齢層へ送ることにより、世代間において沖縄の食文化の文化的価値について、さらに家族間や社会でも話題にのぼり、共に考える機会を生み出すことを図った。</p> <p>■印刷物の種類／部数 ①調査報告書／250部 ②チラシ／5,000部</p> <p>■発信等事業 ③WEB発信 ⇒弊社HPへ調査報告書、チラシのPDFを当財団〔総合研究所〕のHPに掲載し、多くの方々への情報共有を図る。その際、マスコミ宛てにニュースリリースを行い、県内外へ広く本事業について発信する。 ※発送先は下記のとおり。 発送先：全1,400件（※手渡し含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校（260件） ・中学校（122件） ・高等学校（66件） ・特別支援学校（18件） ・大学・専修学校（11件） ・学童（199件） ・保育園（62件） ・児童館（65件） ・老人会（42件） ・博物館・資料館（79件） ・図書館関係（63件） ・公民館（60件） ・市町村役場（40件） ・市町村文化振興課（34件） ・観光関連（56件） ・マスコミ（27件） ・雑誌（3件） ・調査協力機関（17件） ・調査協力者（48件） ・アンケート回答者・話者（73件） ・その他調査協力者（32件） ・委員（12件） ・その他研究者（5名） ・県人会（6件） |
| 成果・効果 | <p>配付先の市町村教育委員会や保育園等では、沖縄の食文化に関する内容への期待感が大きく、WEB配信についても画像貸出館等より協力的な感触が得られた。</p> <p>文化庁 令和6年度文化芸術振興費補助金「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業 琉球・沖縄の伝統的な食文化 —祖霊祭祀の行事食と「医食同源」の食思想が根付いた食文化— 調査報告書・「食文化ストーリー」 お知らせ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 https://churashima.okinawa/news/1744267452/</p> <p>総合研究所 一般財団法人 沖縄美ら島財団 https://churashima.okinawa/ocrc/</p> |